

受付 番号	農薬委員会農地利用最適化推進委員候補者											推薦者										
	担当区域		氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		農業委員 併願	推薦・応募理由等	抱負	一般推薦				団体推薦				
							年月	職名・役職等	営農類型 (主な経営 作物)	経営規模				推薦者 代表氏名	性別	年齢	職業	団体の名称	代表者等 氏名	活動の 主たる目的	構成員	
	第1希望	第2希望	人数	資格・要件等																		
1	奥内	-	赤田 千草	女	52	農業	H9.3.31 H26.4～ H26.4～ R1.6～ R6.4～	新潟大学法学部法学科卒業 清水農事振興会及び保全隊役員 青森市北部地域病害虫防除実施協議会 ラジコン作業員 青森県農業共済組合清水地区共済部長 青森市農地利用最適化推進委員	稲作 (水稻)	12.8ha	-	▼推薦理由… 担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、農業への新規参入の促進等に関して活躍されており、現在も青森市農地利用最適化推進委員を務めている赤田千草氏を奥内土地改良区では適任者として推薦するものである。 ▼農業に関する知識・経験に対する評価… 長年に亘り農事振興会、農業共済の組織の一員として地域農業に携わり、人脈は広く、地域農家の事情を把握し、地域発展のために貢献し地元からは信頼が厚い。これら地域農業で培われた経験は豊富でありリーダー格である。 ▼地域における活動など、これまでの活動に対する評価… 地域で取り組んでいる、農事振興会・保全隊・航空防除等には積極的に取り組み、農業者と地域住民の結束に尽力し、農業発展のために活躍している。この実行力・行動力は益々地域発展へ貢献している。	農業の後継者不足により農業経営の厳しい中、農業者の農地維持・生産販売の向上、又担い手・新規農業者の育成確保により、農地利用の確保に努め、情報収集・提供し農業者の生産向上に尽力します。					奥内土地改良区	理事長 溝江 幸敏	農地の基盤整備・農業水利施設の維持管理	692	主に水田の所有者又は耕作者
2	浪岡	-	野呂 正幸	男	78	農業	S43.4～H6.8 H14.5～ H16.3～ H18.3～ H22.3～ H30.4～ R7.10～	浪岡農業協同組合に在職 蟹堰水利組合長 浪岡川土地改良区理事 下町町内会副会長 青森農業協同組合総代 青森市農地利用最適化推進委員 浪岡川土地改良区副理事長	水稻 果樹 (カシス)	水稻 0.785ha 果樹 0.1192ha 合計 0.9042ha	-	▼推薦理由… 本区域の農業者として農業発展に貢献していることや、地区の代表として当土地改良区の理事を現在まで22年間務めており、青森県土地改良事業団体連合会からも長年の功績により功労賞も受賞していることから適任であると認め推薦します。 ▼農業に関する知識・経験に対する評価… 農業者として地域の営農に努力しており経験・知識とも豊富である。 ▼地域における活動など、これまでの活動に対する評価… 当土地改良区の地区代表理事として土地改良事業を推進してきたことや、下町町内会副会長等を務めていることから、地元においても信頼されている。	青森市農地利用最適化推進委員に選任されたら地域農業の代表者として農業発展のため努力していきたい。					浪岡川土地改良区	小倉 尚裕	農業水利施設の維持管理	1,532	主に水田の所有者または耕作者
3	五郷	大杉	細川 隆雄	男	58	農業	S62.4～ H17.4～ H18.12～ H31.4～ R3.4～	就職し社員の傍ら休日農業を手伝いする 兼業農家となる 会社を退職し就農 青森市浪岡の細野地区の町内会長 青森市農地利用最適化推進委員	果樹作 (りんご)	果樹 220a	-	▼応募理由… 今現在の農家の実情をみてみると、度重なる人件費や資材・燃料・農機具の高騰をはじめ、農家の高齢化などの様々な問題が山積しています。 こうした中で、これからも離農や後継者問題での農地の手放し・耕作放棄地がますます増える事が懸念されることから、そうした農地が少なくなる一助になればと考え応募致しました。 ▼農業に関する知識・経験に対する自己評価… 自身がこれまで耕作してきた、米・りんごに関しての経験や知識を委員として生かせるものと考えております。 特にこれからの気候変動や温暖化により、長年にわたり地元で生産されてきた作物も、作付け方法や品種の変更といったことも一緒に勉強していければと思います。 ▼地域における活動など、これまでの活動に対する自己評価… 現在、町内会役員や共同防除組合役員、JAりんご部会や共済組合部長などのほか、地域の消防団活動も行っております。 こうした活動は大変ではありますが、農家の方々と地域の住民との交流の場でもあります。 今後も活動を通じて人と物、人と人を繋ぐ場として活用してまいります。	令和3年4月から農地利用最適化推進委員を務めてまいりました。これまで農家の方々對話したり農地を巡回して感じるのは、中山間地での離農や荒廃が加速度的に進んでいるように思います。 これには、地形的な要因(急傾斜地・周囲山林)や水利が悪い、作業道が無い等の問題。これに付随して、機械の大型化による小さい面積での効率の悪さ、こうした農地の後継者がいない問題など様々な原因があります。 近年は地球温暖化や燃料ほか物価高騰により、第一次産業が非常に危うくなっています。また、米価格の乱高下も生産者の意欲を衰退させているように思います。 私自身こうした外的要因の事態を止める事は出来ませんが、農地の荒廃や生産意欲を無くさないような一助になればと思います。									